

コミュニティ交通って なんだろう？

《詳細》
企画課
☎25-2181



市長が掲げた政策目標の中で「コミュニティバス事業の取り組み」という項目が注目を集め、多くの市民の皆さんから関心が寄せられていますが、「どんなものかよく分からない」という声も聞かれます。

市では昨年から、公共交通の利用に不便を感じる地域の移動手段として「コミュニティ交通事業」の検討を進めています。その概要についてお知らせします。

コミュニティバスとは

コミュニティバスを運行している例は全国に多数あります。

一般的には、路線バスが運行していない地域や、高齢者の移動手段の確保を目的に、小型バスやジャンボタクシーなどを使用し、運行するもので、通常の路線バスのように「決まった路線を決まった時刻に運行」またはタクシーのように「路線を定めず予約に応じて運行」などの形態があります。

また、運行主体も、自治体、住民団体、商店街、交通事業者、またはこれらが連携した協議会など、さまざまです。

なぜ交通問題を考えるのが

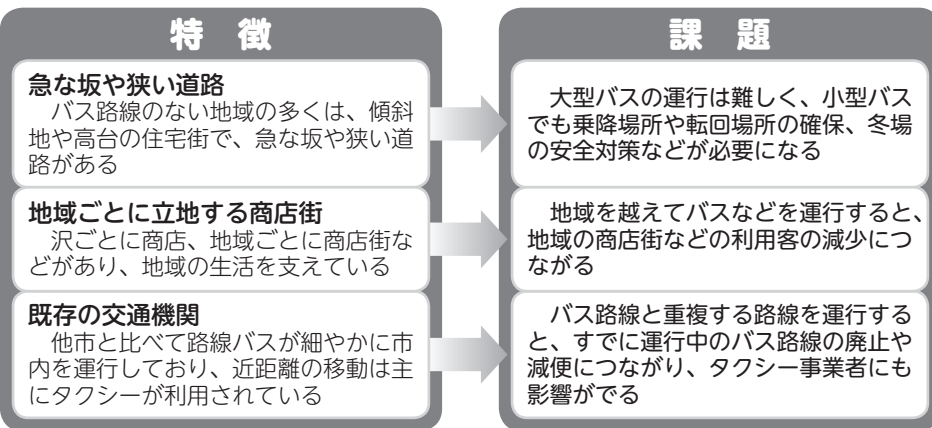
傾斜地や高台などバス路線がない地域では、買い物や通院などの外出に不便を感じている人がいます。

また本市の人口は65歳以上が3割を占め、自家用車を持たない、または運転をしない高齢者が今後増加していくと予想されます。今は外出に不便を感じていなくても、将来外出に困る人の増加に備え、今から検討を始める必要があります。

室蘭の特徴と課題

室蘭は「沢」ごとにまちが発展してきた背景があり、面積が小さく、人口密度も道内2番目に高い比較的コンパクトな市です。

コミュニティバスの運行を考えたときに、次のような課題が考えられます。



コミュニティバスの運行を含め、幅広く移動手段を確保 コミュニティ交通事業

室蘭の特徴と課題を踏まえ、移動手段を検討

駅やバス停から半径300m以上離れた地域を公共交通不便地域として捉える。

※300mは、坂道を考慮した上で、高齢者が徒歩で5～6分かかり不便と感じる距離。

幅広い手法の検討

考えられる移動手段は、

- コミュニティーバスなど新たな交通手段の運行
- ・ 今あるバス路線の延長
- ・ 商店街と連携した買い物バスの運行 など

地域が抱える課題を解決するために、その地域の特性に応じた手法を、幅広く検討します

コミュニティバスなど新たな交通手段を運行する場合でも、

- ・ 地域内の商店街や病院などへの移動を想定し、運行は地域内で完結する
- ・ 乗降場所などは、今あるバス路線と重複しない
- ・ タクシーの利用状況にも配慮する

継続性のある仕組みの検討

コミュニティバスなどを運行しても、地域で支える意識がなければ、利用されず継続しません。市が一方向的に導入を決めてもうまくいきません。

市直営で運行するのではなく、住民団体・商業者・交通事業者との連携の中で、仕組みづくりを検討します



伊達市
「愛のリタクシー」
市内60歳以上の人が利用できる乗合タクシード、伊達商工会議所がタクシー事業者に委託し運行。一般タクシー車両を使用した予約運行と、ジャンボタクシーを使用した定時運行があり、自宅から目的地までの運行。料金は500円～2千500円。

他市の例



今後の取り組み

他都市では、市と地域が十分話し合い、地域全体で新たな交通手段を支える意識を持ち、利用者確保に主体的に取り組んでいるケースが成功例として挙げられています。

また、市が一方向的にコミュニティバスを導入したものの、ほとんど利用されず、わずかな期間で廃止するようなケースも見られます。継続性のある仕組みをつくるには、市だけの取り組みではなく、地域の協力・連携が必要不可欠です。

室蘭市の場合、交通の不便さに対する感じ方や新たな移動手段の必要性については地域によって差があります。平成24年度は、まず先行して2つのモデル地区を選び、地区の住民の移動に関する実態や必要性を詳細に調査します。また住民との勉強会を開催し、十分議論を重ね、地域と一緒に検討していきます。そして、モデル地区の取り組みを参考にしながら、他の地区にもつなげていきたいと考えています。コミュニティ交通事業の取り組み状況については、市のホームページ (http://www.city.muroran.lg.jp/main/org2200/community_koutu.html) をウェブ情報提供として提供します。